

令和2年度の経営協議会における学外委員からの主な意見とその対応状況

令和3年3月31日現在

学外委員からの主な意見	対応状況
(碧雲蔵等)企業集積拠点を作った時に経常的に大学にお金が入る仕組みを整備してほしい。	誘致した企業等との教育や研究で連携していくなかで、関連する共同研究契約による研究費や寄付といった形での受け入れを考えている。
外部資金獲得のためのスキル向上支援制度について、申請者の半数以上が採択されたということだが、採択されなかったものの原因分析をし、採択率を高めてほしい。	学内教員(レビュアー)による、「科研費申請書添削支援制度」への申請にあたっては、申請書の提出とともに前年度に不採択となった申請書等の提出を求め、当該年度申請書添削における参考として活用しているが、採択されなかったものの原因分析については、その方法等を含め、今後の検討課題としたい。
実習に関するコロナ禍をふまえた取り組みとして、実際に手を動かして実施した時と、デジタル教材を通して実施した時にどう変わるのか、両者を比較する評価のシステムがあるとよい。	7月13日以降、教育支援室会議及び学部教育部会議において、コロナ対策を踏まえた申請について審議・許可(指摘事項も含めて)するかたちで、多くの実習を可能な範囲で対面で実施している。あわせて、学生に対しオンライン授業等に関するアンケートを実施し、対面での授業(実習)実施をこの後も希望する多くの学生の意向を確認している。現在、両者を比較して評価するシステムはないが、この後も多くの実習を感染対策を行いつつ、可能な範囲で対面で実施していくとともに、デジタル教材を通して実施する内容に関しても、より対面に近い実習内容になるような工夫等について教育支援室で検討していきたい。
統合後の同窓会組織をどうするのかを考えることは非常に大切である。	同窓会組織は各大学のものであるので、統合後も同じように各大学に存続することとなる。法人として、また各大学間で連携できることがあるかは今後検討していく。
バイオガスについての大学の研究の方向性は？	
家畜の排せつ物の処理をどうするかということは、道内全体の排せつ物をどうするかということにつながっていくのでは。	バイオガスの利用に伴い課題となる消化液の利用・処理に関する研究を推進するため、帯広商工会議所と連携し、地域企業等との研究コンソーシアムの形成による課題解決のための研究実施を計画している。
・給与について 給与として支給することもよいと思うが、研究費を配分するという方法の方がよいのではないか。生活費としてよりも、研究費を手厚く配分していただきたい。	令和2年度に、1500万円学長裁量経費で確保し、計画等に基づいて若手中心に配分する計画を立てていたが、1000万円は新型コロナウイルス感染症対策の方に拠出したため、令和3年度は改めて同額確保し、研究支援に充てることを考えている。また、間接経費分を研究費として支援するというようなことも実施するところである。
新聞を中心に報告していただいているが、新聞・動画(テレビ放送)をいれることはないのか。URLの掲載等。	次回より、テレビ放送実績を報告する。番組URLについては、経営協議会開催時には公開終了となっている可能性があるが、開催時点で閲覧可能なものを掲載予定。